

第1学年 生活科学習指導案

指導者 大野 敏子

1 単元名 あきとなかよし「あきって、たのしいね」

2 単元について

(1) 学習指導要領から

本単元は、生活科の内容(4)(5)(6)(8)と関わりがあるものである。その中でも特に、

- | |
|---|
| <p>(5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。</p> <p>(6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊ばしに使うものを工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。</p> |
|---|

という内容と深く関わっている。

ここでは、諸感覚を使って、繰り返し自然と触れ合ったり自分なりの思いや願いをもち、進んで自然とかかわったりすることで、自然と一体になりながら四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにすることを目標としている。また、身近にある自然物を利用したり、遊びに使うものを工夫して作ったりする活動を通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなで遊ぶ楽しさを味わうことができるようにすることを目標としている。

本校の敷地内には約60種類の樹木が植えられており、四季によって様々な変化を見せている。秋になるとスズカケやユリノキ、イチョウなどが落葉し、校庭が色とりどりの葉で埋め尽くされる。これらの落ち葉やドングリ、松ぼっくりなどの木の実を使って、秋を十分に味わい、自然のすばらしさに気付くことができるようにしたい。また、校庭だけではなく、身近な公園や広場などでも秋を味わえるような活動を取り入れ、学校以外の身近な場所でも秋を感じながら、自分たちの生活を楽しくすることができるようにしたい。

(2) 単元の目標

身近な自然とかかわる活動を通して、自然の変化や自然物を使った活動の楽しさに気付き、自分の生活を楽しくしようとする。

(3) 単元の評価規準

○身近な自然の変化や自然物に関心を持ち、楽しく遊ぼうとしている。

(生活への関心・意欲・態度)

○落ち葉や木の実などの自然物や身近な材料を使って、工夫しながら飾りや遊びに使うものを作ったり遊んだりして、楽しく活動している。

(活動や体験についての思考・表現)

○夏に比べて身近な自然の様子が変化したことに気付いたり、秋の自然を使った遊びの面白さや自然の不思議さ、友だちとかかわって遊ぶことの楽しさに気付いたりしている。

(気付き)

3 部会研究課題とのかかわり

研究課題 (1) 学校や地域の特色を生かした単元開発

○学校行事『一本杉フェスタ』との関連

本校では、生活科や総合的な学習の時間で学んだことを地域や家庭に伝える場として『一本杉フェスタ』という行事を行っている。この行事と本単元を関連させ、一本杉フェスタを、秋の自然物を使って楽しくつくったものをみんなに紹介するための場に設定する。一本杉フェスタには、保護者・地域に住んでいる方・幼稚園や保育園の園児を招待する。自分たちがこれまで十分に楽しんだ活動を他の人にも味わってもらうためにどんな工夫をしたらよいか、どんなところに気をつけてつくればよいか、どのように伝えればよいかなどを考えることで、活動への気付きが高まるだろう。また、友だちとグループを作って活動することで、友だちと気付きを共有化したり友だちや自分のよさに気付いたりできると考える。

研究課題 (2) 子どものこだわりやよさを見つけ、やる気を引き出す支援のあり方

○「みつける」「くらべる」「たとえる」を重視した秋さがし

「秋をみつけよう」と一言と言っても、草花・空気・風・雲・日差し・食べ物・虫・服装など、さまざまな点から秋を感じることができる。そこで、夏と今の生活では何が変わってきているのかという問いかけのもと、子どもたちが自由に秋さがしを行うことのできる場を設ける。子どもたちは自分なりの視点をもって「お花が枯れて、種が取れたよ」「涼しくなってきたよ」など見つけてくるだろう。秋さがしの活動には、十分な活動の時間を保障する。校庭や近隣の公園などで十分に秋を味わえるように配慮する。また、生活科の時間以外にも秋さがしを行うように声をかけ、家庭での出来事やおうちの人の言葉、メディア、通学路などからさまざまな「秋」を見つけられるようにする。こうして見つけてきた秋を教室前の廊下に展示し、秋に対する思いを広げられるようにしていきたい。木の実や葉っぱなど、実物をそのまま展示したり、雲や花壇の花などの写真、子どものつぶやきを書いたカードなどを掲示したりするコーナーを設けることで子どもたちは秋の楽しさや美しさに気付き、秋に浸ることができるようになると思う。また、子どもたちの発見に応じて「どんぐりコーナー」「花の種コーナー」など、見つけた秋を分類して展示していく。展示することで、どんぐりコーナーにあるどんぐり同士を見比べたり、自分が持ってきたどんぐりと比べたりすることができるようになり、「こんなにおおきなどんぐりがあるのだね。」と、気付きを促すことができるだろう。これらの気付きは新たな活動の動力となり、子どもたちは意欲的に活動すると思う。

○子どもたちが自信をもって活動できるようなカードの活用

子どもたちが自分の思いや願いをもって活動する姿を確かに見取るために「振り返りカード」を活用する。それをもとに子どもたちの思いをを把握して次時につなげられるようにしたいと考えた。

カードの中央部には、本時の中で感じた思いや気付いたことを記入できるようにする。カードのタイトルは『できたよ!』『すごいね!』『こまったな』の3種類を用意し、“自分ができるようになったこと”“自分や友だち、自然のすごいところをみつけたこと”“困ってしまったこと”を視点にして学習の振り返りを行えるようにする。これらの3種類のカードから1枚を選ぶ活動を行うことで、子ども自身が“今日の自分はどうだったのか”(満足している・困っている等)を具体的に考えることができるようになるだろうと考える。

できたよ!

つぎに やってみたいこと

カードの下部には「次はこうしたい」という思いを書く欄を設ける。子どもたちは本時の自分を踏まえて、「今度は松ぼっくりで飾りを作りたい」「もっとよく回るコマを作りたい」と、次時への思いを素直に表現すると考える。こうして綴った思いを友だちと共有したり教師が見取って支援したりすることで、子どもたちは思いや願いの実現のために意欲的に活動すると考える。

研究課題 (4) 他教科との合科関連的な指導の充実

○自分の思いや願いを伝え合うための「言語活動の充実」

子ども達が自分の考えや思いを他者に伝える際、指示語や身振りなどで表す姿がよくみられる。例えばどんぐりごまをつくって遊ぶとき、「ここらへんに穴をあけると、上手に回るんだよ。」などと表現する。一緒に活動しているときにはその表現も伝わりやすいのだが、カードに表したり他の場面で他者に伝えようとしたりするときには伝わりにくくなってしまふ。また、自分ができるようになったことを実感するためにも、活動や思いを言語化することが大切であると考えた。そこで、子どもがつくったり遊んだりする活動の中で、「どういうところに気を付けたの。」などと尋ねて、子どもの考えや思いを共感的に理解するようにし、その後、「そうか、真ん中にまっすぐつまようじを刺すといいんだね。」というふうに具体的な言葉で子どもの活動を示すようにする。そうすることで、子ども達は自分の活動が言語化され、他者に伝える際に伝えやすくなると考えた。

このようにして言語化された子どもたちの気付きは、友だちを伝え合うときにも伝わりやすくなり、友達からも褒められやすくなる。そして友だちや教師から認められることで子どもたちの気付きがより高まっていくと考えた。

○図工・国語との合科関連的な指導

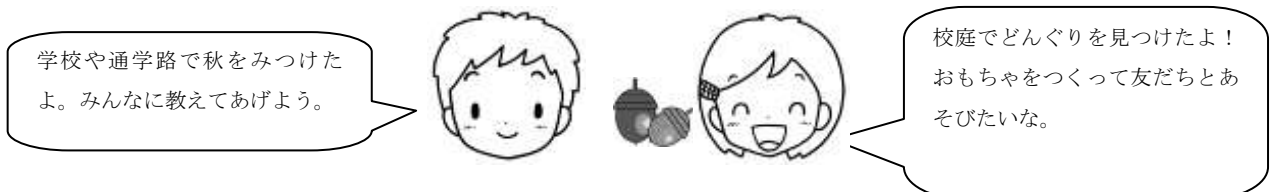
秋の自然物を使った活動は生活科以外にも行っていくことで、自然物を使った活動の面白さに没頭できると考えた。まず、図工の『うきうきボックス』という学習と関連付ける。“材料を選んだり組み合わせたりしてバックをつくる”という活動の中で、材料に秋の自然物を取り入れながら制作していく。他にも国語『たのしかったことをかきましよう』の題材として本単元を活用したり、『メモを使って紹介しよう』という単元をもとに、一本杉フェスタの発表を構成したりして、生活科の学習を他の場面でも生かせるようにしたい。

このように他教科との合科関連を図ることで、子どもたちは秋を十分に楽しむことができるようになると思う。

4 児童の実態から (男子 10名 女子 14名 計 24名)

(1) この単元を通して育てたい子どもの姿と子どもの思い・願い

- 学校や地域にある自然に関心を持ち、自ら進んでかかわろうとする子ども
- 落ち葉や木の実などを使って、友だちと工夫しながら作ったり遊んだりする活動を楽しむ子ども
- 身近な自然の変化や自然物を使った活動の面白さ、自然の不思議さに気付く子ども
- 友だちと遊んだり思いを伝えあったりする中で、友だちや自分のよさに気付く子ども



(2) 教師の願いと配慮事項

教師の願い

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	気付き
①身近な自然に親しみ、自然物を使った活動に楽しさを感じ、進んで自然とかかわろうとして欲しい。	②体全体を使って「秋」を感じ、その思いをすなおに表現して欲しい。落ち葉や木の実などの特徴を生かしてついたり遊んだりして欲しい。	③自然の変化や不思議さや自然物を使った活動の面白さに気付いて欲しい。友だちとかかわりながら活動することで、自分や友だちのよさに気付いて欲しい。
①教室前の廊下に「私が見つけた秋」のコーナーを設け、紹介できるような場を用意する。また、それらを使ってついたり楽しんだりするための図書資料を用意し、子どもたちが自分から調べたり考えたりできるようにする。	②子どもたちが十分に秋を感じられるような場や時間を確保する。秋を探す活動などで様々な視点から自然を見つめたり、見つけたことを表現したりできるように教室内外の掲示を工夫する。	③活動の中で気付いたことを友だちと交流できるように、活動の場を工夫したり意見交流の時間を設けたりして、気付きを共有化できるようにする。頑張ったことを発表したり賞賛したりし合うためのカードを工夫する。

(3) 配慮事項に関する実態

○配慮事項①に関連して

- 子ども達の、自然や自然物に対する興味・関心

(行動観察・つぶやきから)

これまで行ってきた学校探検や公園探検の活動の中で、子どもたちは様々な葉や花を見つけてきた。イチヨウの葉を見て、「先生、青いイチヨウの葉があったよ。」と不思議がっていたり梅の実を見て、「なんでこれが赤い梅干しになるのかな。」と考えたりしていた。また、シュロやヒイラギの葉の先に触れて、「ちくちくして痛い葉っぱがある。」「とがっていて面白い。」「痛いからこの葉っぱは嫌だな。」などと話す姿が見られた。休み時間や放課後にこれらの葉や実を集める子どもの姿も見られる。最近では、ドングリの実を見つけ、「ドングリ笛をつくりたい。」と、話す子も増えてきている。

○配慮事項②に関連して

- 子ども達の自然とのかかわり方

(行動観察・観察カードから)

子どもたちは、自然とかかわる時に「見る」「触る」の活動を多く行っている。公園探検やアサガオの観察などの学習では色や大きさという視点で見たり、指先のみで触ったりする様子が多く見られていた。また、中には草の上に寝転ぶという経験をしたことのない子どももいた。このことから手のひらや腕、足など体全体を使って自然とかかわる活動をあまり行っていないことがうかがえる。

○配慮事項③に関連して

- 自然の変化や不思議さ、面白さに関して

(行動観察)

夏に行った色水遊びの学習では、自分が育てたアサガオや校内にある様々な花からきれいな色の水をつくることを楽しんで行っていた。また、シュロの葉でうちわをつくってあおいだり傘のようにかざして遊んだりもしていた。このように、身近にある自然物を使って活動することの楽しさに気付いている子どもが多くみられる。

- 友だちとかかわりながら活動することのよさに関して

(つぶやき・カードから)

本校では、自分や友だちの頑張りをカードに書き、掲示するコーナーを設けている。子どもたちは、友だちに認めてもらった嬉しさを感じ、次の活動も頑張ろうという思いをもっている。また、友だちの頑張りを認めて、自分も真似しようという思いをもっている子どももいる。このような認め合いの活動を本単元の中でも行い、子どもたちが自分や友だちのよさに気付けるような支援をしていきたい。

5 学習の流れ (23 時間扱い)

主な活動と内容

あきとふれあおう (11)

小単元の評価規準

- ◎身近な秋を見つけたり、見つけた落ち葉や木の実で楽しく活動したりしようとしている。 (関心・意欲・態度)
- ◎秋を感じるものを探したり、見つけたものを使って遊んだりする活動の中で気付いたことを表現している。 (思考・表現)
- ◎自然の変化や、秋に採れる自然物を使った活動の楽しさに気付いている。 (気付き)

- 校庭で秋探しをする。(2)
(常時活動でも継続して行う)
- 学校の周りで秋探しをする。(4)
- ・本町公園
 - ・千葉大医学部
 - ・通学路や家の周り (常時活動)
- 見つけた落ち葉や木の実を使って飾る物や遊ぶものをつくったり遊んだりする。(4)
本時 (9 / 23)
- 友だちとつくったものを紹介したりつくったもので一緒に遊んだりする。(1)

【留意点】

- ・子どもたちがそれぞれの視点をもって秋探しを行うための時間を確保する。
- ・見つけた秋をカードに書いたり実際に飾ったりして全体に紹介し、もっと秋を見つけないかという気持ちを引き出すようにする。
- ・見つけた秋の自然物を大切に保管できるように保管場所を設ける。
- ・探しながらつくる活動を行えるように、道具を整えておく。
- ・道具の使い方や使う場所を毎時確認し、安全に気をつける。

つたえよう あきのたのしさ (12)

小単元の評価規準

- ◎友だちや園児たちに秋の自然物を使った飾りや遊びについて、進んで伝えようとしている。 (関心・意欲・態度)
- ◎自然物を使った活動の楽しさを分かりやすく伝えるように工夫している。 (思考・表現)
- ◎友だちと協力して活動し、自分や友だちのよいところに気付いている。 (気付き)

- 「あきのおみせやさん」を開くことを知り、どんなお店にしたいか考える。(1)
- お店の準備をする。(4)
- ・商品や看板等の準備 (2)
 - ・2年生や幼稚園の園児を招待してリハーサルを行う。(2)
- 『一本杉フェスタ』でお店を開く。(2)
- これまでのカードをもとに、振り返りをする。(1)

【留意点】


- ・グループでの活動内容や個々の役割を明確にし、互いに協力して活動できるようにする。
- ・園児にもできそうな活動を考えるように声かけをし、安全に活動できるようにする。
- ・国語や図工科との合科関連を図り、充実した活動になるように計画を立てる。
- ・カードの活用により自分や友だちのよさに気付かせ、自信や満足感をもたせるようにする。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

落ち葉や木の実を使って遊ぶものや飾るものをつくったり遊んだりする中で、自然のものを使った活動の楽しさや自分や友達の良いところに気付き、楽しく活動することができる。

(2) 展開 (9/23)

学習活動と内容	教師の支援(○)と評価(☆)
<p>1 前時に書いたカードを見て、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>前よりもよく回るコマを作って友だちと競争したいな。</p>  </div>	<p>○前時までの学習を振り返ることができるように。カードを前方に掲示しておく。</p> <p>○カードに書かれた内容と本時の活動が変わってもよいことを伝え、自分の思いをもって活動できるようにする。</p> <p>○活動する場や活動中の注意点などを伝え、安全に活動できるようにする。</p>
<p>おちばや木のみをつかって かざるものや あそぶものをつくろう。</p>	
<p>2 集めてきた落ち葉や木の実を使って、つくったり遊んだりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">飾る場所</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">個人の材料置場</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">花壇</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 15%;">あそぶ 的当てコーナー つくる</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">飾る物をつくるコーナー</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 15%;">あそぶ けん玉コーナー つくる</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 15%;">あそぶ こまコーナー つくる</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">道具置き場</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">材料置場</div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> きり </div> </div> </div>	<p>○屋外で行うため、ブルーシートを敷き、落ち着いてつくる活動に没頭できるように場を設ける。</p> <p>○きりを使う場所を決め、使う際は十分安全に留意させる。</p> <p>○作る→遊ぶ→作り直す→遊ぶといった活動がしやすいような場の工夫をする。</p> <p>○子どもの意欲の高まりや気付きを見取れるように、各活動場に目を向けるようにする。</p> <p>○つくる場所・遊びを試す場所・つくったものを飾る場所を分け、友だちのつくっているものを参考にしたりアドバイスし合ったりしながら活動できるようにする。</p> <p>○どのようなところに気を付けてつくっているのかを尋ねたり、その子なりに工夫しているところを伝えしたりして、活動している内容を言語化しやすくする。</p> <p>○本時のめあてにしていたものを作り終えた子には、つくったものを使って友だちと遊んだり、別のものをつくったりしてもよいことを伝え、充実した活動になるようにする。</p> <p>☆落ち葉や木の実の形や色を生かしてつくっている。</p> <p>【思考・表現】(活動の様子・カード)</p>
<p>【遊ぶもの】 こま・けんだま・的当て など</p> <p>【飾るもの】 ツリー・髪飾り・置物など</p>	
<p>3 本時の活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちとつくったものを見合う。 ・カードに自分の思いや次時のめあてを書く。 ・活動して楽しかったことや気付いたことを発表する。 	<p>○探検バックにあらかじめ3枚のカードを入れておき、そこから本時のカードを選んで書くことで、活動や振り返りの時間を確保する。</p> <p>○工夫したところを伝えながらつくったものを紹介するようにし、友だちの頑張りに気付きやすくする。</p> <p>☆友だちと意見を交流し、自分や友だちのよいところに気付いている。【気付き】(発表・交流・カード)</p> <p>○次の活動でどんなことをしたいのか確認し、意欲化を図る。</p>

